



日蘭交流のさらなる発展に向けて

青山学院大学国際政治経済学部教授

阿部 達也

平昌五輪スピードスケート

今年2月の平昌五輪で、オランダ勢は20個のメダルをすべてスピードスケート競技で獲得した。同競技でオランダに次ぐ活躍を見せたのは日本勢。活躍の背景にはオランダの関りがあった。小平奈緒選手はオランダで2年間にわたってトレーニングを行い、日本ナショナルチームはオランダからヨハン・デビットコーチを招いた。

オランダの合理性と開放性

これら一連の事実にはオランダの2つの特徴が凝縮されているように感じる。1つには実益を重視し、得意分野に特化する合理性。産業でいえば園芸農業と酪農の分野で切り花、球根、トマト、じゃがいも、チーズなどを輸出している。いま1つは外部に対する開放性。最近問題化しているとはいえ、移民の受け入れには比較的寛容で、大学における外国人留学生の数も多い。外国から選手を受け入れ、外国にコーチを送ることができる背景にはこのような開放性があるのではないかと。

日蘭の歴史的接点

オランダの合理性と開放性は、実は日本がすでに歴史の中で経験してきたことでもある。まず、江戸時代を通じて長崎・出島で貿易が行われていた。他の欧州諸国とは異なり、オランダはキリスト教の布教に関わらなかったからである。また、1643年には「ブレスケンス号事件」があった。水と食料の補給を求めて現在の岩手県山田町の湾に入港したオランダ船ブレスケンス号の乗組員は、「宴会」に招待した南部藩役人の策略にはまって捕らえられてしまう。警戒心はあまりなかったのかもしれ

ない。そして、明治時代には福島県の安積疏水の開削事業で、昭和40年代には秋田県大潟村の干拓事業で、それぞれオランダ人技師の技術指導を受けている。

姉妹都市交流へ

このような日蘭の歴史的な接点は姉妹都市という形で受け継がれている（長崎県平戸市とノールトワイケルハウト (Noordwijkerhout) 市、長崎県長崎市とライデン (Leiden) 市、山田町とザイスト (Zeist) 市、福島県郡山市とブルメン (Brummen) 市、秋田県大潟村とドロンテン (Dronten) 市)。特に、山田町には東日本大震災の復興のためにオランダから支援が差し伸べられた。歴史を単なる過去の事実ではなく、現在そして未来につなげてゆく契機としてとらえるものとして大きな意義がある。日蘭交流のさらなる発展に向けて、姉妹都市間の交流がより活発になることを期待したい。



オランダの街並み



岩手県山田町の「オランダ島」

プロフィール

阿部 達也 (あべ たつや)
専門は国際法 (軍備管理・軍縮)。在オランダ日本国大使館専門調査員および化学兵器禁止機関 (OPCW) 技術事務局職員として2度にわたりオランダで勤務した経験がある。